

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福島県南会津郡只見町立只見小学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒968-0421

福島県南会津郡只見町大字只見字上ノ原1735-1

E-mail tadasyou@tadami.ed.jp

Website http://kir523528.kir.jp/?page_id=35

幼児児童生徒数 男子29名 女子26名 合計54名

幼児・児童・生徒の年齢7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、ESDを「困難な問題について考え、立ち向かい、解決するための学びであり、持続可能な社会の担い手をはぐくむ教育」と捉え、ESDの実践を通して、ふるさと只見を愛する心（只見愛）をはぐくみ、将来の担い手としての自己実現や社会貢献のための実践力の育成を目標とした。

具体的には、①只見学の奨励、②ふるさと只見の良さを感じる体験の充実、③地域とともにある学校づくり、④海を意識したESDを行った。

① 只見学の奨励

本校では、地域に学んで理解を深めながら、地域の価値を再発見してまちづくりを担う人材を育てる「只見学」を進めている。児童は、地域の自然環境や食文化、歴史等について調べたり、ゲストティーチャーの指導のもと体験したりして只見学を学んでいる。また、学んだことを町の「只見学検定」を受検することを通して、将来は誰しものがガイドできる力を身につけることを目標に学んでいる。

② ふるさと只見の良さを感じる体験の充実

児童がユネスコエコパークのまち只見の良さを実感するためには、本物を見たり体験したりすることが重要である。今年度は、学校行事等の見直しを図った。全校児童による「田子倉湖モーターボート散策」「ふるさと登山」などを通して、只見ならではの雪食地形、巨大雪塊、ブナ林などの雄大な自然を味わった。そして、改めて只見のすばらしさを実感した。

③ 地域とともにある学校づくり

只見の良さは自然環境だけではない。戊辰戦争時、河井継之助にまつわる「命の種もみ」の話でも有名な只見の人の温かさは並ではない。コミュニティースクールの機能を生かし、授業、農業体験、読み聞かせなど多くの地域住民が学校教育に参画してくださっている。

④ 海を意識したESD

テーマを「海とつながる只見町」とし、総合的な学習の時間を中心に、ESDを実践している。これは、「只見の自然と共生することが水循環を通して海を守ることにつながること」「八十里越（国道289号線）の開通とともに日本海が近くなること」を学び、将来の町の在り方を考え、自己実現や社会貢献のための実践力を育む取組である。各学年のテーマは、3年「只見の森の四季」、4年「海から八十里をやってきた歴史や文化」、5年「ユネスコエコパークのまち只見の自然と海」、6年「只見の将来を提言する ～海とつながり、世界と結び付く～」とし、体験的・探求的な学習を進めている。また、全校児童による学校行事「八十里を越えて海へ」を通して、海に親しみ海からの恩恵を感じる体験（地引き網体験等）を実施し、海とのつながりを体感させた。

①「只見学ガイドブック」



②モーターボートで田子倉湖散策



③図書ボランティアによる読み聞かせ



④日本海での地引網体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (海洋教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 学校行事)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「只見学ガイドブック改訂版」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校のESDの根幹を成す「只見学」を1・2年生は生活科を中心に、3年生以上は総合的な学習の時間を中心に位置づけた。1年生に51時間、2年生に65時間、3年生に50時間、4年生に45時間、5・6年生に55時間の時数を当て、体験的・探求活動を十分に行うことができるようにした。学年毎に「只見学学習計画」を作成し、一単位時間ごとの指導内容や各教科、特別活動等との関連がよく分かるようにした。活動後、この学習計画に変更点や改善等を書き入れて、次年度の計画を作成する際に役立てた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内にESD推進委員会を設置し、委員が中心となって当校が進めるESDの確認や学習計画・ESDカレンダーの総括的な検討、各学年のESD取組状況等の確認を行うとともに、そこできまったことを職員会議等で全職員に伝え、共通理解・実践をすることができるようにしている。また、只見町が平成29年に、東京大学海洋アライアンス海洋教育センターと協定を結んだことを機に、貴センターの研究員の方に、折に触れて指導・助言をいただいている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESD関連学習活動が終了するごとに、全指導者で内容や指導法について振り返りを行った。9月には、児童と保護者対象に、学校の教育活動に関するアンケートを実施し、ESD関連学校行事について意見を募った。児童や保護者からは、活動内容について高い評価を得ることができた。また、学校運営協議会委員の方からも、次年度以降も活動を継続してほしいという意見を得た。学校行事には、保護者や地域の方にも協力を得ていることから、実施時期についてが課題となった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

3年生は只見の自然について学んだことを学習発表会の劇を通して、4年生は、只見の郷土料理レシピガイドブックを作成し、地域の振興センターに展示することを通して、5年生は只見町を紹介するパンフレットを作成することを通して(次年度の修学旅行時に東京でパンフレットを配布する予定)、6年生は、今年2月に東京大学で開催された、第5回全国海洋教育サミットで発表することを通して、活動の成果を発信した。これらの取組は、当校のESDを一般の方に広く知っていただく機会となったと共に、児童の問題解決力や表現力を高める上で効果があった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

東京大学海洋アライアンス海洋教育センターから、特に海洋教育に関する情報提供や活動計画・内容に対する指導・助言を、直接的あるいは間接的にいただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

町内全ての小中学校が、ユネスコスクールに加盟している。各校の活動内容等について、適宜情報交換を行っている。特に今年度は、東北コンソーシアム研究指定を受けている町内小学校のESD公開授業研究会に3名の教職員が参加し、ユネスコスクールやESDに関する研鑽を深めた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

今年度は、海洋教育の視点を付加したESDへの取組のスタートの年であった。そのため、手探りの中での活動となったが、児童や教職員の、ユネスコスクールやESD、海洋教育への関心が高まったことが大きな成果であった。また、学校行事等に保護者や地域の方の協力を得たことは、ユネスコスクールの活動を広く知っていただくよい機会となった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

次年度は、今年度以上に海洋教育の視点を強めたESDに取り組んでいく予定である。

- 4月 各学年のテーマに基づく学習計画立案，只見小学校ESD実践開始。
5月 「田子倉湖散策」モーターボートに乗って只見の自然のすばらしさを体験。
6月 「八十里を越えて海へ」八十里峠（国道289号線工事現場見学）を越えて，日本海に親しみ，海の恵みを感じる体験。
9月 「ふるさと登山」ふるさとの登山を通して，只見の自然の雄大さを味わう。また，只見町や越後平野，日本海を俯瞰することで只見の地理的位置を感じる体験。
10月 学んだことを伝えよう「学習発表会」ESDで学んだことを劇やポスターセッションなどで発表する活動。
11月 ESD公開授業
1月 地域成果報告会
2月 「第6回全国海洋教育サミット」での実践報告。